

# 私の夢

進学C組

白 松楠

子供の時、サッカーが大好きだった。この時の夢はいろんな友達と毎日サッカーで遊ぶことだった。何も考えないで、一日中遊んでいた。今、振り返って見たら、これは私の一番嬉しかった時だった。

その後、本当の夢を持つようになった。それは建築家になることだ。中学校、高校に入って、建築についてもっと知るようになった。建築家は、社会に責任を負い、社会のため奉獻しなければならない。自分の興味によって設計するのではなく、大勢の人々を満足させる家を建てるべきだ。そして様々な建物を見て感じたのですが、我が国の建築に魅力を感じた。

私は、建築は文化の産物だと思う。一国の文化を最も具体的に表現できるのが建築だ。だから、一国の文化を知らなければ、その国の建築を理解するのができない。

中国文化には、建物は人間と一緒に命がある。家主の仕事の成功とともに、新しい建物がつくられ、そして家族の没落と時間の流れに従って荒廃される。したがって、腐敗できる木材を使うと、最も生命の意味を表せる。一方、石という建築材料は地下のものだから中国人はこれが死を意味すると信じている。そして墓は石でつくる。実は、木造建築は人々に暖かい感じを与える。

中国人にとって生命力は永遠より重要である。それは木材の使用だけでなく、形の感覚も重要である。中国の建築は地面に木の柱を支えておいて屋根を曲線の模様にして空へ飛ぶような感じだ。中国人は軽快さが生命力を表すと思っているため、こうした形を作って人々に生き生きとしている感じを伝えた。このような我が国の建築様式を現代建築に積極的に入れてみたい。

実は、私は小さい頃から、ずっと水と山などの自然の景色が大好きだった。幼い時「自

然と夢をもたらした建築家、ガウディ」とい  
う本を読んだことがある。ガウディは天才的  
な想像力で自然に似た童話のような家を造っ  
た。彼にとって窓の外の花、木、鳥など自然  
が尊敬する師匠だ。さらに自然の中で学ぼう  
と努力した。

建築家安藤忠雄をご存知ですか。彼の作品  
を見ると、彼が本当に自然を愛する人である  
ことがわかる。彼の建築には、光と風、水、  
木など自然の要素と人間が作った建築材料が  
融合され、人間と自然の調和が容易にわかる。

もし私が建築家になったら、自然と融合す  
る建築を作りたい。自然は私たちの根であり、  
私たちは自然の一部ではないだろうか。しか  
し、今現在、人間は自然を破壊し、自然と離  
れて生きて多くの悩みが生じた。だから私は  
人間は自然を離れてはいけないと思う。自然  
と人間をつなげる建築を作りたい。そして、  
人々に暖かさを与える建築を作ってあげたい。  
建築家になるために努力しなければならな

い。そして中国で一流大学を目指して一生懸命勉強したが、残念ながら希望の大学には届かなかった。その時は非常に落ち込んだ。でも、父と母に励まされ、また頑張ろうとした。そして必ず私の夢を実現するという目標を持って日本に来た。日本の建築は中国の建築と非常に似ている。そして、日本は建築技術がさらに発達しており、偉大な建築家がすごく多い。だから建築を学ぼうと考えている私にとって非常によい環境だと思う。これは私が日本にまた理由とも言える。そして良い大学に入って、良い先生のもとで学びたいと思う。

建築家になる道の難しさを知っている。しかし、私はいろいろな困難を乗り越え、一生懸命勉強するつもりだ。こんな夢を実現するには時間がかかるかもしれないが、私はあきらめずに努力する。建築が私の一生の仕事だと考えているからだ。私はきっといい建築家になると思う。私は建築を心から愛するからである。